

# 日本から見た東北経済と 日中協力

松野周治

立命館大学社会システム研究所上席研究員  
2017北東アジア経済発展国際会議イン新潟

1. 中国・東北等老工業基地振興戦略  
（東北振興戦略）と東北経済
2. 日本経済の新たな発展段階と国際収  
支構造の歴史的転換
3. 東北振興戦略への日本の協力
4. 東アジア地域内国際分業深化の歴史  
的意義

## 中国・東北等老工業基地振興戦略 (東北振興戦略、2003年～)

- 改革開放政策（1979年）による地域格差の是正のため、西部大開発（2000年）、中部崛起戦略（2004年）とともに導入
- 1920年代末以降の国民経済建設において、2020年頃、並びに2050年頃をめどにした新段階構築を実現するうえでの重要国家戦略
- 大型国有工業企業の改造、天然資源依存経済の転換、東北アジアにおける戦略という特別の重要性と困難性

## 東北振興戦略下の東北三省（遼寧、吉林、黒龍江）経済【表1、図1、表2】

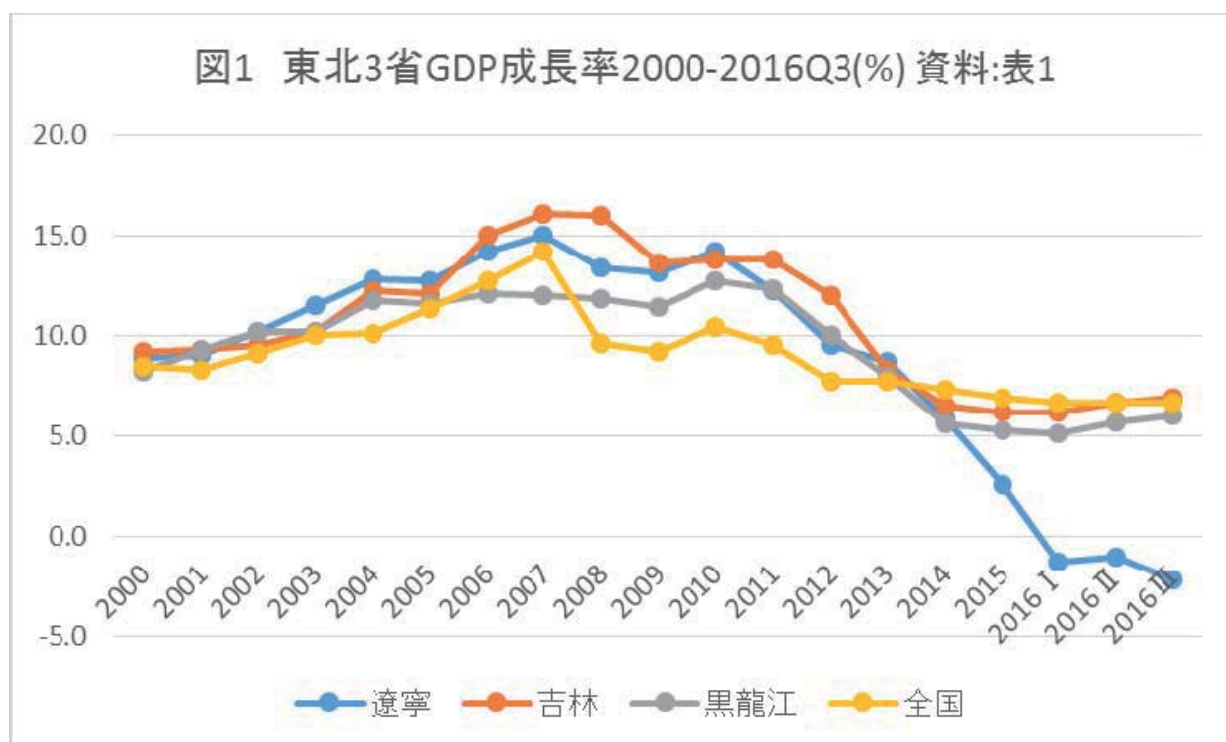
- 全国を上回る経済成長(~2013年)【表1・図1】
- 工業では新生産ライン導入、所有並びに企業規模からみた構造転換。工場移転と市街地拡大。
- 第二次産業のGDPシェア上昇（遼寧、吉林）、全国平均を大きく上回る国有企業の比重
- 遼寧省（三省資産の約1/2）の低利潤率（とくに大中型国有企業）⇒遼寧省（三省GDPの約1/2）の成長率は2014年以降、大幅に下落、2016年には3四半期まで連続マイナス。

表1 東北3省のGDP成長率:2000-2016第3四半期(%)

	遼寧	吉林	黒龍江	全国
2000	8.9	9.2	8.2	8.4
2001	9.0	9.3	9.3	8.3
2002	10.2	9.5	10.2	9.1
2003	11.5	10.2	10.2	10.0
2004	12.8	12.2	11.7	10.1
2005	12.7	12.1	11.6	11.3
2006	14.2	15.0	12.1	12.7
2007	15.0	16.1	12.0	14.2
2008	13.4	16.0	11.8	9.6
2009	13.1	13.6	11.4	9.2
2010	14.2	13.8	12.7	10.4
2011	12.2	13.8	12.3	9.5
2012	9.5	12.0	10.0	7.7
2013	8.7	8.3	8.0	7.7
2014	5.8	6.5	5.6	7.3
2015	2.6	6.2	5.3	6.9
2016 I	-1.3	6.2	5.1	6.7
2016 II	-1.0	6.7	5.7	6.7
2016 III	-2.2	6.9	6.0	6.7

資料: ~2014は中国統計年鑑(各年版)、2015~は中国国家統計局HP(国家数据)

図1 東北3省GDP成長率2000-2016Q3(%) 資料:表1



## 表2 東北振興戦略の成果:GDP

(資料: 『中国統計年鑑』2003年版、2015年版)

項目(単位)		年	遼寧	吉林	黒龍江	全国
GDP	総額(10億元)	2003	600.3	266.2	405.7	13,656.5
		2014	2,862.7	1,380.3	1,503.9	63,613.9
		14/'03	4.8	5.2	3.7	4.7
	対全国比率(%)	2003	4.4	1.9	3.0	100.0
		2014	4.5	2.2	2.4	100.0
		14-'03	0.1	0.2	△0.6	0.0
	1人当たりGDP(元)	2003	14,258.0	9,338.0	11,615.0	10,666.0
		2014	65,201.0	50,160.0	39,226.0	46,629.0
		14/'03	4.6	5.4	3.4	4.4
	1人当たりGDP(米ドル)	2003	1,722.6	1,128.2	1,403.3	1,288.6
		2014	10,614.2	8,165.7	6,385.7	7,590.8
		14/'03	6.2	7.2	4.6	5.9
	第2次産業比率(%)	2003	48.3	45.3	57.2	45.6
		2014	50.2	52.8	36.9	42.7
		14-'03	1.9	7.5	△20.3	△2.9
	第3次産業比率(%)	2003	41.4	35.4	31.5	42.0
		2014	41.8	36.2	45.8	48.1
		14-'03	0.4	0.8	14.3	6.1

## 表2(続1) 東北振興戦略の成果:所有構造と規模

項目(単位)		年	遼寧	吉林	黒龍江	全国
国有工業企業	総資産(億元)	2003	6,278.0	2,931.2	3,703.9	94,519.8
		2014	17,792.0	8,797.9	9,489.4	371,308.8
		14/'03	2.8	3.0	2.6	3.9
	全企業総資産(億元)	2003	9,180.6	3,675.0	4,499.0	168,807.7
		2014	39,246.6	16,686.6	14,995.2	956,777.2
		14/'03	4.3	4.5	3.3	5.7
総資産国有企業比率(%)	2003	68.4	79.8	82.3	56.0	
	2014	45.3	52.7	63.3	38.8	
	14-'03	△23.0	△27.0	△19.0	△17.2	
大中型工業企業	総資産(億元)	2003	6,879.7	3,003.9	3,781.0	125,131.7
		2014	26,779.7	11,625.0	11,343.3	679,436.7
		14/'03	3.9	3.9	3.0	5.4
	総資産比率(%)	2003	74.9	81.7	84.0	74.1
		2014	68.2	69.7	75.6	71.0
		14-'03	△6.7	△12.1	△8.4	△3.1

表2(続2) 東北振興戦略の成果:利潤

項目(単位)		年	遼寧	吉林	黒龍江	全国
工業企業利潤	全企業(億元)	2003	236.0	160.0	575.6	8,337.2
		2014	2,107.6	1,445.9	1,007.1	68,154.9
		14/'03	8.9	9.0	1.7	8.2
	国有企業(億元)	2003	116.0	123.0	555.5	3,836.2
		2014	175.5	701.4	632.5	14,508.0
		14/'03	1.5	5.7	1.1	3.8
	大中型企業(億元)	2003	195.0	145.3	568.1	6,523.0
		2014	886.8	992.6	763.0	44,152.9
		14/'03	4.5	6.8	1.3	6.8
工業企業利潤率 (利潤/資産)	全企業(%)	2003	2.6	4.4	12.8	4.9
		2014	5.4	8.7	6.7	7.1
		14-'03	2.8	4.3	△6.1	2.2
	国有企業(%)	2003	1.8	4.2	15.0	4.1
		2014	1.0	8.0	6.7	3.9
		14-'03	△0.9	3.8	△8.3	△0.2
	大中型企業(%)	2003	2.8	4.8	15.0	5.2
		2014	3.3	8.5	6.7	6.5
		14-'03	0.5	3.7	△8.3	1.3

## 日本経済の新たな発展段階

- 1980年代の過度の経済・金融自由化、国際化・グローバル化によるバブル経済の崩壊後、経済成長率が低下
- 「失われた20年」・「30年」は一面的見方
- 人々や企業の努力、東アジアの成長により、日本経済の構造変化と新たな発展段階が構築されつつある。
- その総括的表現：国際収支構造の歴史的転換

## 日本国際収支構造の歴史的転換

### 【表3～5】

- 貿易収支：19世紀半ば以降、約100年間の赤字、45年間の黒字を経て、2011年以降赤字基調
- 所得収支：黒字幅を拡大し貿易赤字を相殺、経常収支黒字の最大要因
- 証券投資収益：停滞、⇔直接投資収益：拡大。製造業比率の高い、中国を含むアジアに対する直接投資の高収益が、日本経済を支える。
- 対中国直接投資収益：米国につぐ規模。投資残高との比率(収益率)では米国を大きく上回る。

表3 日本の国際収支(経常収支) 1996-2015(IMF第6版基準、億円)

出所：財務省「国際収支状況」[http://www.mof.go.jp/international\\_policy/reference/balance\\_of\\_payments/bpnet.htm](http://www.mof.go.jp/international_policy/reference/balance_of_payments/bpnet.htm)  
2017/01/13 download

年	経常収支	貿易収支	サービス収支	第一次所得収支	第二次所得収支
1996	74,943	90,346	-67,172	61,544	-9,775
1997	115,700	123,709	-66,029	68,733	-10,713
1998	149,981	160,782	-65,483	66,146	-11,463
1999	129,734	141,370	-62,720	64,953	-13,869
2000	140,616	126,983	-52,685	76,914	-10,596
2001	104,524	88,469	-56,349	82,009	-9,604
2002	136,837	121,211	-56,521	78,105	-5,958
2003	161,254	124,631	-41,078	86,398	-8,697
2004	196,941	144,235	-42,274	103,488	-8,509
2005	187,277	117,712	-40,782	118,503	-8,157
2006	203,307	110,701	-37,241	142,277	-12,429
2007	249,490	141,873	-43,620	164,818	-13,581
2008	148,786	58,031	-39,131	143,402	-13,515
2009	135,925	53,876	-32,627	126,312	-11,635
2010	193,828	95,160	-26,588	136,173	-10,917
2011	104,013	-3,302	-27,799	146,210	-11,096
2012	47,640	-42,719	-38,110	139,914	-11,445
2013	44,566	-87,734	-34,786	176,978	-9,892
2014	38,805	-104,653	-30,335	193,738	-19,945
2015	164,127	-6,288	-16,784	206,526	-19,327

表4 日本の投資収益収支1996-2015

(IMF第6版基準、億円、出所:表3に同じ)

	直接投資	証券投資	その他投資	計
1996	15,364	43,589	2,594	61,547
1997	13,004	53,477	2,239	68,720
1998	7,682	52,762	5,678	66,122
1999	3,554	49,364	11,991	64,908
2000	17,942	51,124	7,851	76,917
2001	13,434	62,269	6,355	82,058
2002	9,879	63,455	4,875	78,209
2003	13,017	68,209	5,310	86,536
2004	24,431	74,304	4,874	103,610
2005	27,367	86,480	4,798	118,644
2006	34,503	105,558	2,249	142,311
2007	35,805	122,515	6,569	164,890
2008	20,284	113,278	9,865	143,428
2009	33,171	87,922	5,253	126,347
2010	40,537	89,930	5,751	136,218
2011	44,044	95,386	6,839	146,269
2012	39,332	93,960	6,675	139,967
2013	66,091	105,179	5,756	177,025
2014	77,862	110,044	7,041	194,948
2015	81,151	121,099	5,290	207,540

表5 日本・国別地域別直接投資収益(2015年)

国・地域	投資残高 (2014年末、 億円)	投資収益 (2015年中、 億円)	業種別		収益/残高 (%)	製造業比率 (%)
			製造業	非製造業		
アメリカ合衆国	457,451	32,276	14,458	16,534	7.06	44.8
中華人民共和国	125,080	13,930	9,546	4,384	11.14	68.5
オランダ	115,901	3,635	4,104	4,582	3.14	112.9
英国	92,884	6,617	1,246	5,371	7.12	18.8
オーストラリア	74,989	3,635	908	2,728	4.85	25.0
ケイマン諸島	15,287	1,924	811	1,112	12.58	42.2
タイ	63,000	7,485	5,357	2,127	11.88	71.6
シンガポール	54,788	5,668	2,709	2,959	10.35	47.8
ブラジル	37,084	1,479	89	1,389	3.99	6.0
大韓民国	38,213	2,993	1,949	1,044	7.83	65.1
アジア	414,112	43,583	27,988	15,595	10.52	64.2
北米	477,803	32,276	15,425	16,852	6.76	47.8
中南米	88,458	5,687	1,208	4,478	6.43	21.3
大洋州	82,443	3,973	1,044	2,929	4.82	26.3
欧州	337,921	20,228	7,429	12,800	5.99	36.7
中東	7,432	1,942	1,079	862	26.13	55.6
アフリカ	11,994	760	187	572	6.33	24.7
合計	1,420,166	108,450	54,361	54,089	7.64	50.1

日本銀行国際収支統計「直接投資・証券投資等残高地域別統計」2014年末(年次改訂)2016年5月24日、  
「平成27年中 対外・対内直接投資収益」2016年4月8日、  
[http://www.boj.or.jp/statistics/br/bop\\_06/index.htm/](http://www.boj.or.jp/statistics/br/bop_06/index.htm/), 2017/1/11閲覧、より作成。

## 東北振興戦略への日本の協力

- 東北振興戦略：日本との近接性を東北の優位性とし、投資、貿易などの拡大を目標。
- 事例1：東芝・鉄道車両部門との提携により、大連機車車両会社が、都市鉄道車両分野に進出、旅順新工場を建設。
- 事例2：大連市の自動車産業育成政策に応じて、日産が進出。【写真】
- 事例3：自動車関連金型中小企業の発展
- 日本の投資、貿易の伸び悩み・縮小。【表6】  
⇒東北における対外開放の低位性【表7】





表6 遼寧省の外国貿易と外資導入

		2003	2006	2009	2012	2013	2014
外国貿易	総額(百万ドル)	26,561	48,392	62,925	103,991	114,285	113,955
	輸入額(同)	11,930	20,069	29,484	46,041	49,744	55,196
	輸出額(同)	14,631	28,323	33,441	57,950	64,541	58,759
対日貿易	総額(百万ドル)	8,888	10,884	12,140	15,590	15,633	14,877
	輸入額(同)	3,718	3,989	4,426	5,464	5,514	5,292
	輸出額(同)	5,169	6,894	7,714	10,126	10,119	9,585
日本シェア	総額(%)	33.5	22.5	19.3	15.0	13.7	13.1
	輸入(同)	31.2	19.9	15.0	11.9	11.1	9.6
	輸出(同)	35.3	24.3	23.1	17.5	15.7	16.3
外資導入(注)	総額(百万ドル)	5,583	5,986	15,444	26,793	29,040	27,423
	日本(同)	853	740	1,156	2,145	4,301	3,017
	日本シェア(%)	15.3	12.4	7.5	8.0	14.8	11.0

資料:遼寧省統計局『遼寧統計年鑑』中国統計出版社、各年版

注:実際利用額

表7 東北3省の対外開放度(2014年)

	遼寧	吉林	黒龍江	全国
貨物輸出入総額(最終目的地・原産地、百万\$)	125,389	27,037	29,424	4,301,527
同・全国に占める割合(%)	2.9	0.6	0.7	100.0
GDPに対する比率(貿易依存度、%)	26.9	12.0	12.0	41.5
貨物輸出総額(原産地、百万\$)	55,661	6,246	12,167	2,342,293
同・全国に占める割合(%)	2.4	0.3	0.5	100.0
外商投資企業輸出入総額(百万\$)	48,579	12,349	1,330	1,983,558
同・全国に占める割合(%)	2.4	0.6	0.1	100.0
外商投資企業輸出総額(百万\$)	21,730	1,545	591	1,074,620
同・全国に占める割合(%)	2.0	0.1	0.1	100.0
外商投資企業投資総額(億\$)	1,986	333	240	37,977
同・全国に占める割合(%)	5.2	0.9	0.6	100.0
同・登録資本(外資、億米\$)	986	97	110	17,414
同・全国に占める割合(%)	5.7	0.6	0.6	100.0
(参)GDP:(10億\$)	466.0	224.7	244.8	10,355.8
(参)GDP:全国に占める割合(%)	4.5	2.2	2.4	100.0

資料:『中国統計年鑑』2015年版

## 東アジア地域内国際分業深化の歴史的意義

- リーマンショック後の東アジアの課題：は成長パターンの高度化、格差是正と所得向上を通じた域内最終財貿易の発展、中間財貿易との均衡。
- 東北振興戦略の継続、東北アジア地域協力への日本参加の強化を通じ、東アジアの地域内分業を拡大・深化することが、中国東北および日本、東アジアと世界の持続的経済発展にとって重要である。

### 参考文献

- 加藤弘之・梶谷懐編著『二重の罟を超えて進む中国型資本主義――「曖昧な制度」の実証分析――』ミネルヴァ書房、2016年
- 朱永浩『中国東北経済の展開：北東アジアの新時代』（「ERINA北東アジア研究叢書」2）日本評論社、2013年
- 曹曉峰・梁啓東主編『2016年遼寧経済社会形成分析与予測（遼寧藍皮書）』社会科学文献出版社、2016年
- 辻久子「中国・『東北振興』と日本」『ERINA REPORT』61号、2005年1月
- 松野周治「世界経済再構築と東アジア地域協力の意義」『立命館経済学』58巻5・6号、2010年3月
- Matsuno Shuji, Inter-regional trade, intra-regional trade, and globalization based on regionalization, Jehoon Park, T. J. Pempel, Huangchong Kim ed., *Regionalism, Economic Integration and Security in Asia, A Political Economy Approach*, Cheltenham: Edward Elger, 2011
- 松野周治「中国東北経済の現状をどう見るか―10年余の東北振興戦略との関連で」『研究 中国』第3号（通巻123号）、2016年10月

ご清聴ありがとうございました